

校長室より

第107号

「天空高き」



平成30年4月12日

チャレンジし続け、失敗から学べ！一新入生を迎えてー

今年は例年になく厳しい寒さが続きましたが、意外に春の訪れは早く、生きとし生けるもの、すべてが、至る所で躍動を始めています。

そのような佳き日に、272名（普通科215名、六年制普通科32名、付属中25名）の新入生の皆さん、入学誠におめでとうございます。

高水学園の生徒・教職員は、皆さん一人ひとりを新しい仲間として、心から歓迎します。



さて、今日から6年間、あるいは3年間、皆さんはこの高水学園で、学校生活を送ります。

今の皆さんは、過去の自分がつくってきたものです。未来の皆さんは、今から自分でつくるものです。

現在、日本社会は少子高齢化、高度情報化、グローバル化が急速に進行し、何事に対しても主体的に取り組み、多様な人たちと協力しながら新しい価値を創り出し、未来を切り拓いていく力が求められています。学校においては、「何を学び、どのようにして学び、何を身に付けたか」が、問われています。



ところで、本校の女子ハンドボール部は春の選抜大会に出場しました。彼女らの目標は日本一です。しかし、準決勝で沖縄の浦添高校に敗れ、3位という結果に終わりました。

後日、女子ハンド部からの礼状をもらいました。その中に、『試合後のミーティングで、「まだ日本一になる資格がなかった」とチームで反省をしました。よりチーム一丸となって、私生活からもう一度見直しを図り、夏のインターハイでは日本一になれるよう、新入生も加えたチーム高水で頑張るって参ります』と、ありました。

日本一を目指して、「私生活からもう一度見直す」。日本一になるための課題は、彼女たちは話し合いの結果「私たちの生活の中にある」と、考えました。彼女たちは、

「私生活からもう一度見直す」という課題に向けて、チーム高水で切磋琢磨しながら、チャレンジして行くことでしょう。

今私たちには、女子ハンド部のように、自ら課題を見つけ、その課題に対して一人ひとりが主体的に多様な仲間と協働しながら解決する、という「課題解決能力」が求められています。

今日から、本校で、授業やホームルーム活動、生徒会活動や部活動などを通して、皆さんが一生懸命になれるものを見つけてください。スマホを何時間いじっていても、課題や問題点を見つけることはできません。自分の頭と体を使って行動することで、それらを見つけることができます。そして、その課題や問題点をどのように解決すればよいのか、積極的に、仲間と話し合い協力してチャレンジして行くことです。たとえ失敗しても、その失敗から学ぶことが必ずあります。大事なことは、チャレンジし、学び続けることです。

皆さんが、高水学園で今日から、過去に囚われず、未来を恐れず、今を前向きに全力でチャレンジし続け、6年後、あるいは3年後には、自律した人間として本校を巣立っていくことを期待します。



「先に 明るく 元気に！」—4月の月間目標—

平成30年度のチャレンジ目標は、3つ、

1. 挨拶 先に明るく元気に
2. 先を見据えた行動 5分前行動を
3. 1%を誰かのために ポラティア活動を

です。
4月の月間目標は、「挨拶 先に明るく元気に」です。

挨拶はコミュニケーションの第一歩です。相手の目を見て、先に、明るく元気な挨拶を心がけましょう。その時大切なことは、あなたの素敵な笑顔で挨拶することです。

以前聞いた話ですが、ある日本の航空会社のキャビンアテンダント（CA＝客室乗務員）の採用試験で、「笑顔」が素敵だからということで、「笑顔」で最終試験まで合格をした女性がいたそうです。

「Keep Smiling, Stay Positive!」いつも笑顔を決やさず、どんな状況下においても常に前向きに取り組んでいきましょう。

4月の月間目標

挨拶
先に明るく元気に

平成30年度
チャレンジ目標

1. 挨拶 先に明るく元気に
 2. 先を見据えた行動 5分前行動を
 3. 1%を誰かのために ポラティア活動を
- 校長室より

日本人の傾向として、すぐに「できないこと」の理由探しを始めるんですが、「できること」と「できないこと」を明らかにして、「ここまではできる」「こうすればもっとできる」を積み上げていくことが重要ですね。

曾根綾子

創立120年周年を迎えー高水村塾からー

高水学園は明治31年4月10日、周南市高水の地に、高水村塾として創立され、昭和29年に、ここ南岩国に転出し、今日まで120年間、「師弟親愛」「堅実明朗」「勤労実践」を校訓とし、「教育による徳性の陶冶、すなわち、人格の錬成」を、一貫とした建学の精神、指導の根幹として、日々の教育に取り組んで参りました。

卒業生は優に3万1千人を超え、国内外を問わず、社会のあらゆる分野に、多くの人材を輩出している、歴史と伝統に支えられた学園です。

右の写真は創立当時の高水村塾ですが、茅葺（かやぶき）の校舎です。その右下に現在の高水学園の航空写真（卒業生がドローンで撮影してくれました）がありますが、創立当時の同窓生が見られたら、びっくりされることでしょう。

開校当時は、生徒3名に教師3名で、学校の設備施設に資金が全部充当されたために、教師は無報酬だったそうです。

明治32年の高水村塾規則の第3条には「本塾の教科目は修身（道徳）、国語、漢文、英語、数学、歴史、地理、理科、図画、体操及び農業とす」と、あります。

学年は4月1日に始まり3月31日に終わり、3学期制。日曜日、祝日は休業日。春季・夏季・冬季の休業日もほぼ現在と同じです。ただ、違うのは当時の教師は、数科目掛け持ちで、初代宮川忠蔵理事長先生は、英語、作文、歴史、体操の4科目を教えられていたようです。

設立当時の様子は、「高水学園80年誌」に詳しく記述されています。先人の方々は何も無い状態からの開校で、筆舌に尽くしがたいご苦労があったと思います。しかし、高水村塾創設以来一貫した教育方針「徳性の陶冶」、教育による真正な人物を養成する、という教育の根本は脈々と受け継がれてきて、120年経ちました。皆さん、先人たちの熱い思いを次の世代に伝えてもらいたいと思います。



創立当時の高水村塾



明治末期頃の塾舎



「楽学の碑」周南市指定文化財



オーストラリア姉妹校研修プログラムーサザンクロス C.C.からー

3月10日～20日、生徒13名（付属中2年生3名、3年生6名、六年制普通科1年生2名、普通科2年生2名）、引率教員2名（重岡・福井先生）、総勢15名が、無事、姉妹校のサザンクロスカトリックカレッジでの研修プログラムを終えて帰校しました。

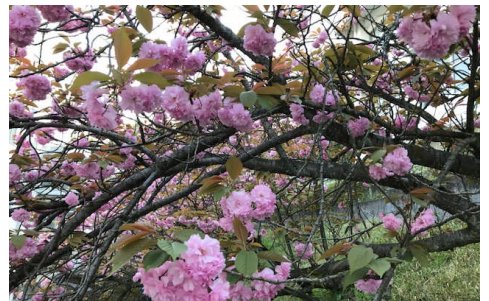
本校の生徒のためにいろいろなメニューの授業や研修プログラムを用意していただいたようです。その時の様子については、本校のホームページに写真と共に掲載されています。是非、目を通してもらいたいと思います。

姉妹校ならでの充実したプログラム、そして学校交流そしてホームステイ。彼らはこの姉妹校での研修を通して、お互いの歴史、伝統や文化を直接体験できたことは大きな財産になり、これからの彼らの成長に大いに役立つと思います。



「花は嘆かず」 坂村真民

わたしは 今を生きる姿を 花に見る
花の命は短くて など嘆かずに 今を生きる
花の姿を 賛美する
ああ
咲くもよし 散るもよし
花は嘆かず 今を生きる



24節気

【清明】せいめい：4月5日頃

「万物発して清浄明潔なれば、此芽は何の草としれる也」（暦便覧）とあります。清明とは清浄明潔を略したもので、万物に生き生きとした気がみなぎってくる頃です。清新明朗、曇りのない澆刺とした春気。咲き競う百花が匂う時です。

【穀雨】こくう：4月20日頃

「春雨降りて百穀を生化すれば也」（暦便覧）とあります。穀雨とは百穀を潤す春雨のこと。準備が整った田畑を浸す雨は 穀物の生長に効果をもたらします。雨の恵を受けたい黒い土からは、「春の汗」を誘う陽炎がたちのぼる頃です。

出典「こよみのページ」